

【別紙様式3】

再評価実施事業調査

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金 (道路事業)		路線又は箇所名等		一般国道464号 北千葉道路I期		
事業所管課		道路整備課			事業主体		千葉県		
事業化年度	平成17年度	用地着手年度	平成17年度	工事着手年度	平成18年度	再評価の理由	再々評価		
				工事終了(認可)年度	平成41年度				
費用便益比 B/C	1.1 (9.2)	総費用	987億円 (115億円)	総便益	1,071億円 (1,055億円)	基準年	平成 28年度	供用開始 年度	平成 42年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

一般国道464号は、千葉県松戸市から千葉県成田市までの延長約43kmの路線で、東葛飾地域と成田地域を結ぶ重要な道路である。北千葉道路は、首都圏北部と成田国際空港のアクセス時間を大幅に短縮する新たな道路アクセスルートとして都市再生プロジェクトに位置付けられている4車線道路であり、I期区間のうち印西市若萩から成田市北須賀までの約4.2kmを県で、成田市北須賀から成田市押畑まで約5.6kmを国がそれぞれ事業を実施しているところである。

【事業の進捗状況】直轄施行区間除く（平成28年度末見込み）

	県施行区間 (I期)	投資事業費	残事業費	進捗率
延長(km)	4.2	—	—	—
事業費(億円)	440	365.8	74.2	83%
うち用地補償費	25.9	25.9	0	100%
うち工事費	414	339.8	74.2	82%

※四捨五入の関係で合計が一致しない箇所がある。

【社会経済情勢等】

- ・北千葉道路は、都心と成田国際空港間のアクセス強化のみならず、成田・千葉ニュータウン業務核都市の骨格交通軸として地域の活性化を図る上からも必要不可欠な道路であることから関係7市の首長等からなる北千葉道路建設促進期成同盟や、商工会議所などの経済団体からなる北千葉道路（印西市～成田市間）建設促進協議会より整備促進の要望を受けている。
- ・現道の国道464号は緊急輸送道路1次路線に指定されているが、供用済み区間を除く区間については、幅員が狭くカーブが多いため、救急医療活動や物流活動に支障をきたしている。また、幅員狭小や渋滞が原因となる出会い頭や追突の事故が多く発生しており、安全性の向上が急務である。
- ・平成17年度から事業に着手し、必要な用地取得も完了していることから、引き続き工事を実施し、早期供用を目指している。

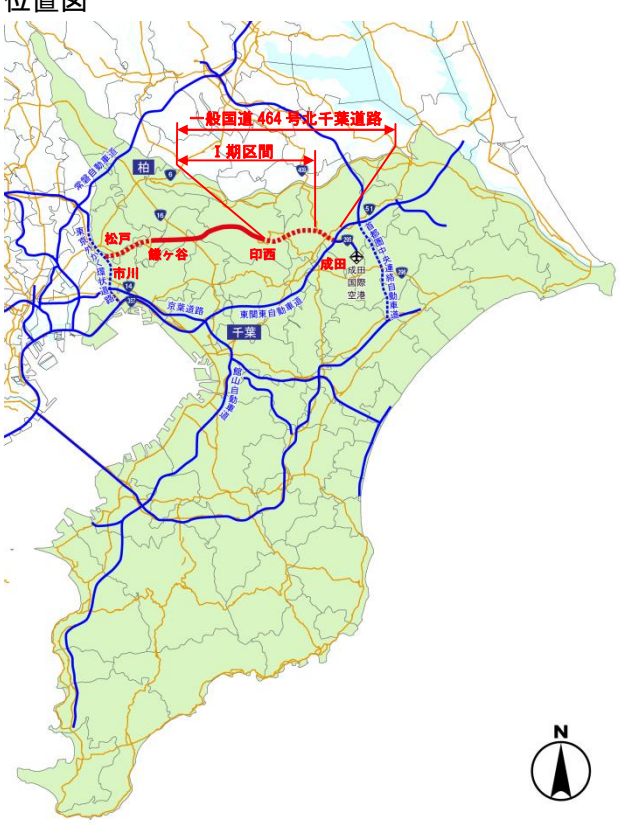
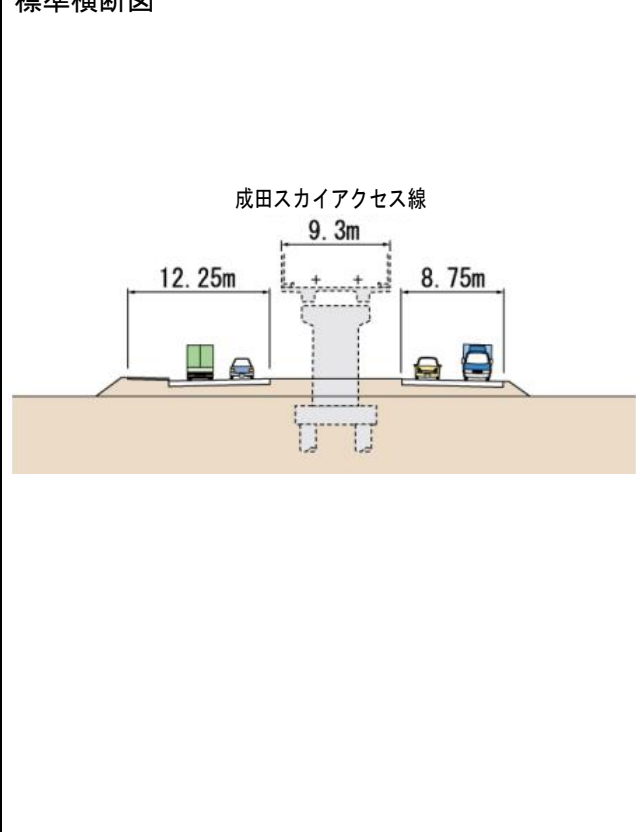
【対応方針(案)】

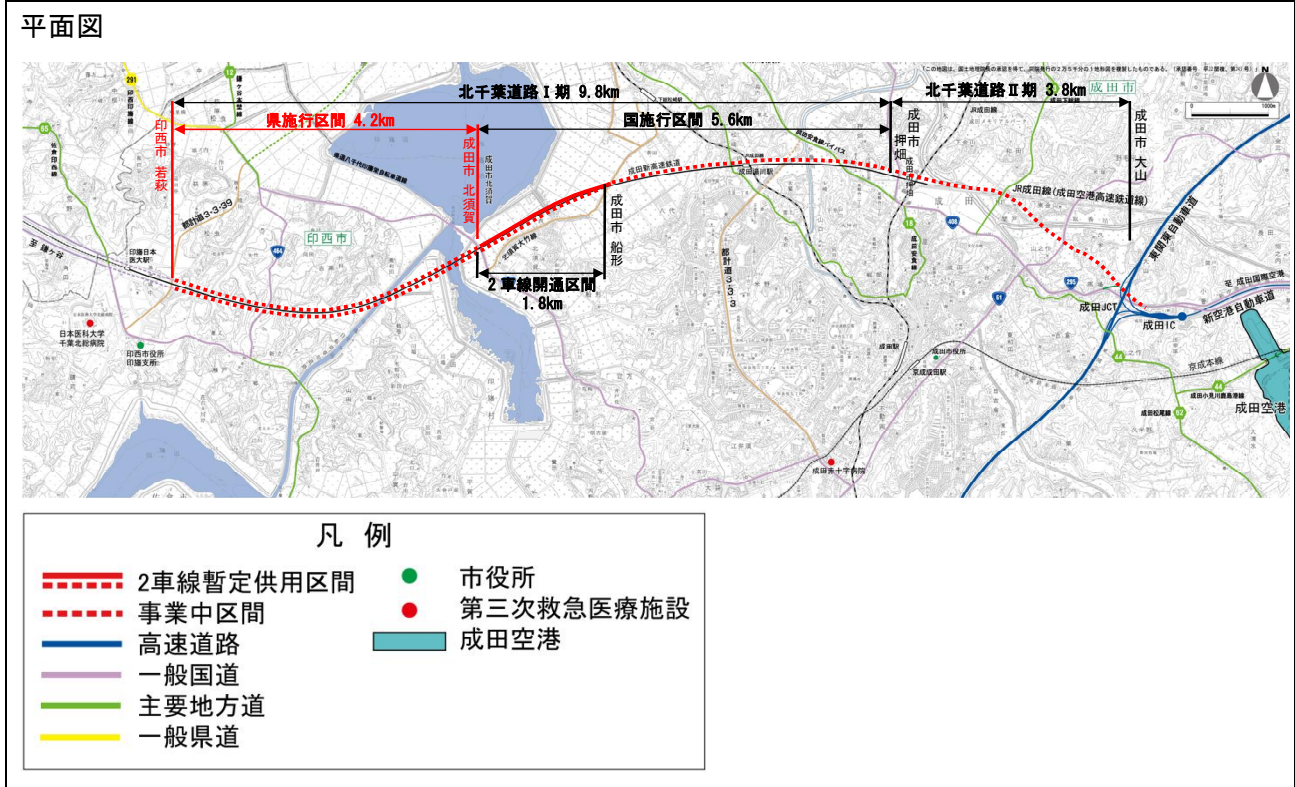
北千葉道路I期区間は、事業全体の費用便益比(B/C)が1.1(残事業9.2)であり、事業の投資効果が見込まれる。

「首都圏北部と成田国際空港のアクセス強化」に資する道路整備として位置付けられ、整備効果として、道路ネットワークの強化や、移動時間の短縮・定時性の確保による物流の効率化、通過交通と内々交通の適切な機能分担による安全性の向上、第三次救急医療施設や防災拠点間の所要時間の短縮による救急医療・防災機能の向上などに寄与することから、事業の必要性・重要性が高いため、早期供用に向け事業を継続したい。

【別紙様式 4】

## 事業概要図

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金 (道路事業)	路線又は箇所名等	一般国道464号 北千葉道路 I 期
位置図			標準横断面図		
					



【別紙様式5】

## 再々評価事業に関する調書

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金 (道路事業)	路線又は箇所名等	一般国道464号 北千葉道路I期
事業化年度	平成17年度	用地着手年度	平成17年度	工事着手年度	平成18年度

**【再評価の概要】**

再評価実施年度 (基準年)	平成23年度	供用開始年度	平成31年度	対応方針	継続
B/C	1.8	総費用	783億円	総便益	1,442億円

再評価時の委員会の意見及び当時の状況  
継続することが妥当である。

再評価時の進捗状況及び再評価時想定5年後の進捗状況

	計 画	進捗状況(H23)	5年後の想定進捗状況
全体事業費	420億円	249.5億円(59%)	384億円(91%)
用地取得面積	211,282㎡	210,998㎡(99%)	211,282㎡(100%)
供用面積(延長)	4.2km	—	—

**【再々評価の概要】**

再評価実施年度 (基準年)	平成28年度	供用開始年度	平成42年度	対応方針	継続
B/C	1.1	総費用	987億円	総便益	1,071億円

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況 (H28 未見込み)
全体事業費	440億円	365.8億円(83%)
用地取得面積	211,282㎡	211,282㎡(100%)
供用面積(延長)	4.2km	—

再評価後の経過及び処理状況

用地については、平成24年度中に必要な用地がすべて確保できたことから、現在は平成28年度内の暫定2車線開通に向け整備を進めているところである。  
引き続き、事業の早期完了を目指すこととする。